

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
6 7 3 号
富山県東部家畜保健衛生所

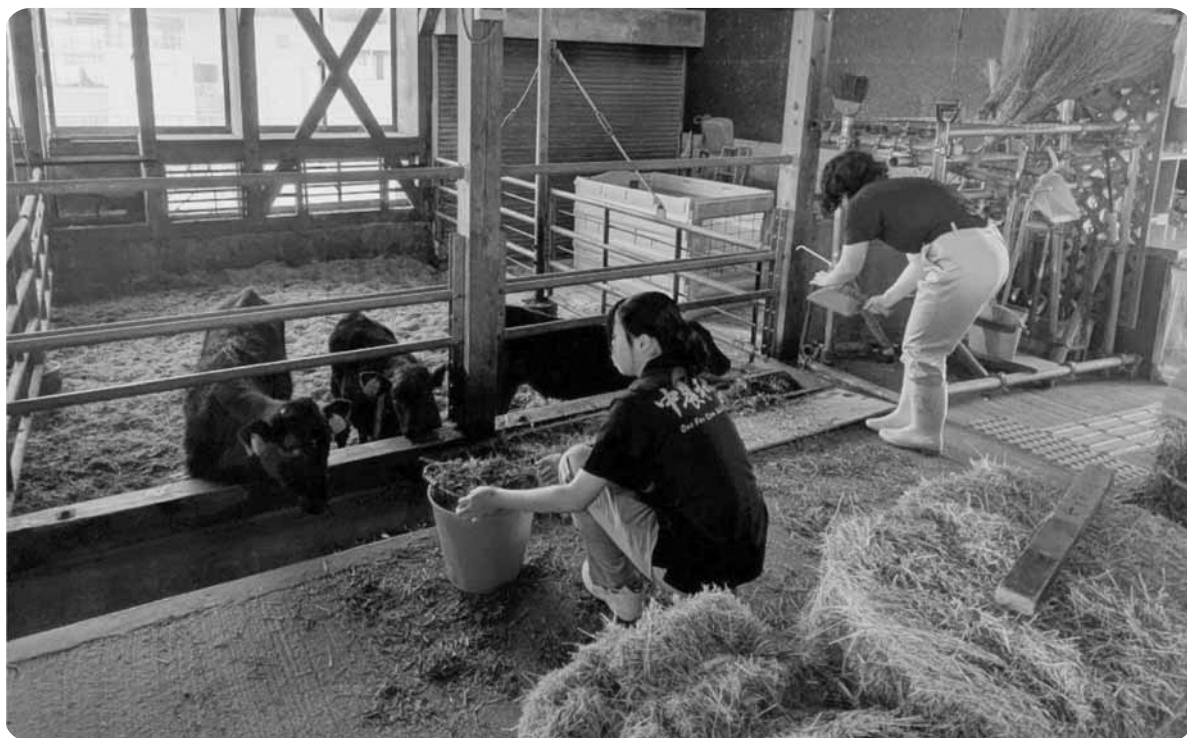
西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2025. 6. 10

- ☆目指せ和牛甲子園入賞
中央農高で牛愛会が発足…………… 1
- ☆家畜伝染病対策の強化について…………… 2
- ☆ランピースキン病のまん延防止対策について… 3
- ☆家畜保健衛生所フィールド研究ノート
～県内の野生いのししで豚熱は
なぜ再度増えた～…………… 4

- ☆畜産環境保全を取り巻く状況について… 5
- ☆令和 7 年度畜産経営技術推進指導協議会
総会・家畜保健衛生対策会議を開催 …… 5
- ☆防疫情報…………… 6
- ☆今年も開催 富山駅で牛乳祭 …… 6
- ☆お知らせ…………… 6

目指せ和牛甲子園入賞 中央農高で牛愛会が発足



牛愛会の朝の活動風景

今年度、富山県立中央農業高等学校（中央農高）で同好会「牛愛会」が発足しました。これは、畜産専攻以外の生徒も中央農高で飼育している牛の管理に関われるよう、同好会として立ち上げたものです。正式に同好会として活動できるようになったことで、畜産専攻ではない他コースの生徒や、まだ専攻に分かれていない1年生も牛の飼養管理に参加できるようになりました。牛愛会の立ち上げ後は「これまでは先生が牛の基礎管理をしていたが、今は朝の餌やりや清掃など生徒が中心になって行うようになった。」と生徒が主体的に飼養管理に関わる部分が広がりました。この他にも、中央農高で取り組んでいる JGAP に関する書類作成や、中央農高で生産された牛肉の販売会や近隣で開催されるイベントへの参加など活動は多岐にわたっています。今後は、和牛甲子園での入賞に向けた成績向上のための方策について、牛愛会のメンバー全体で検討していきたいとのことでした。

現在は同好会組織であるため牛愛会としては対外活動ができませんが、ゆくゆくは部として正式に和牛甲子園に参加できるよう計画しているそうです。いつか牛愛会が和牛甲子園で入賞できるよう我々も応援していきたいと思います。

（東部家保環境課 宮本課長）

家畜伝染病対策の強化について

家畜伝染病の直近の状況を踏まえ、今後の対策の徹底強化を図る必要があるとして、令和7年4月18日に農林水産省鳥インフルエンザ・豚熱・アフリカ豚熱合同防疫対策本部が開催され、以下のとおり家畜伝染病対策の強化の方向性が示されました。

I 鳥インフルエンザ対策パッケージ

- 令和6年シーズンの疫学調査の結果も踏まえ、地域の連続発生に的確に対処し殺処分による影響をできるだけ減らすため、来シーズンに向け以下の対策パッケージを打ち出すべく、今後、家きん疾病小委員会で詳細が検討される予定です。

1 飼養衛生管理の強化

- ・養鶏集中地域や過去続発地域をあらかじめ指定し、地域ぐるみでの野鳥対策や発生時の速やかな消毒対応等を実施
- ・過去の調査報告も踏まえ、続発の一因と考えられる塵埃対策等を飼養衛生管理基準に新たに位置付け
- ・再発農家への改善確認の強化、飼養衛生管理に不遵守が見られた場合の手当金減額率の見直し
- ・指導に従わない農家への法的な指導や勧告の実行性向上
- ・飼養衛生管理基準への段階評価の導入

2 分割管理の推進

- ・分割管理に取り組む場合の対応を法律に基づく飼養衛生管理基準に位置付け
- ・大規模農家での分割管理の検討を義務付け
- ・導入を促進するため、一定の衛生管理や経過観察を行うことを条件に、分割管理の運用の見直し

3 ワクチン接種の検討

- ・効果の高い新技術ワクチンの開発や欧米の状況を踏まえ、予防的ワクチン接種の導入に向けた検討を開始

4 まん延防止に向けた防疫措置の見直し

- ・民間事業者の活用が進むよう、事業者のリスト化、研修の実施、事前の協議等を促進

II 豚熱清浄化ロードマップの策定

- 養豚農業の振興に関する基本方針（令和7年4月）において、「豚熱については、今後、現下の発生状況やこれまでの対策の効果を踏まえつつ、関係者が連携し、清浄化に向けた道筋を示す。」と示されました。これを踏まえ、以下の考え方に基づき清浄化に向けたロードマップを策定すべく、今後詳細が検討されます。

ロードマップ策定の考え方

ワクチン接種下の発生状況や技術の開発状況を踏まえ、以下の考え方でロードマップを策定。

- ・マーカーワクチンを早期に実用化し、これに切り替え、飼養豚での感染がない状況を確保し、「豚熱清浄国ステータス」を回復
- ・殺処分について、これまでの知見を踏まえ、範囲の見直しが可能か、専門家も含め、検証
- ・一方、効果的な方策を検討しつつ、野生いのししの感染の縮小が可能となれば、いのししの感染リスクがない地域から、飼養豚のワクチン接種を中止
- 最終的に、全国でのワクチン接種の中止（完全な清浄化）を目指す。

III 水際における更なる侵入防止対策の強化

- 訪日外国人の増加により違反品の持込みが著しく増加し、組織的かつ反復した悪質と思われる事例も顕在化しています。「水際検疫の強化に向けた検討会」での議論を踏まえ、法制度面も含め、強化策の具体化に着手する計画となっています。



動植物検疫探知犬による手荷物検査

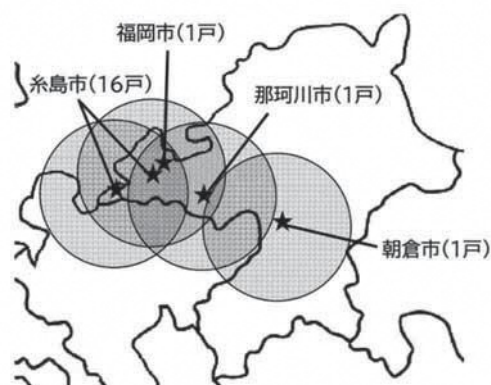
農林水産大臣からは「日本の畜産を守るため、農林水産省として総力を挙げて取り組んでいきます。」との発言がありました。

（東部家保防疫課 西井課長）

ランピースキン病のまん延防止対策について

1 ランピースキン病の発生状況と対策について

ランピースキン病は、令和6年11月6日、福岡県の乳用牛飼養農場において国内で初めて発生し、同年12月26日までに、福岡県19例、熊本県3例の計22例の発生が確認されました。疑症牛を含め、累計230頭の発症牛が確認されましたが、自主淘汰、同居牛等の出荷自粛、ワクチン接種、吸血昆虫対策等のまん延防止対策を行った結果、現在発症牛は確認されていません。一方で、本病は今後も引き続き国内で発生・まん延するリスクが想定される中、十分な防疫対策が実施できなければ、日本全国に発生が拡大する恐れがあります。このため、農林水産省は本病について殺処分の命令など「家畜伝染病（ブルセラ症、結核、ヨーネ病等）」と同程度のまん延防止措置を行えるよう、家畜伝染病予防法に基づき新たに政令を制定し、7月下旬に政令が公布・施行される見通しとなっています。



円はおよそ20km圏内を示す。

福岡県内発生位置図

(出典：福岡県ウェブサイト)

2 ランピースキン病まん延防止自主対策促進事業について

ランピースキン病は、伝播力が高く、乳量の減少、流産等により経済的な損失が生じる疾病です。また、牛に本病が発生した場合には、一部の国・地域への牛肉等の輸出が出来なくなる可能性がある等、国内への経済的な影響も大きい疾病となっています。このため、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、発症牛を自主的に淘汰した牛の生産者が経営継続を目的に牛を再導入する取組みに対して支援し、本病のまん延防止を図っています。

(1) 事業の内容

生産者が、①本病の発症牛、または②発生農場に由来する導入牛を自主的に淘汰した後、経営継続を目的に牛を再導入した場合に奨励金を交付（自主淘汰牛に対する補償ではないことにご注意ください）。

(2) 事業対象

①本病の発症牛を、真症牛又は疑症牛と判定された日の翌日から28日後までに自主淘汰した場合

②真症牛の検体採取日から過去35日間に発生農場から導入された牛を、導入90日後までに自主淘汰した場合

※政令の施行後に殺処分をした場合は手当金の対象となるため、本事業の対象とはなりません。

(3) 奨励金の単価

乳用農場の場合

淘汰牛の種類	再導入牛の種類	奨励金額 (万円)
乳用牛	初妊牛	60
	経産牛	30
	育成牛	30
子牛（和牛）	子牛（和牛）	60
子牛（交雑種）	子牛（交雑種）	20
子牛（乳用種）	子牛（乳用種）	10

肉用農場の場合

淘汰牛の種類	再導入牛の種類	奨励金額 (万円)
肉用繁殖牛	初妊牛	60
	経産牛	30
	育成牛	60
子牛（和牛）	子牛（和牛）	60
子牛（交雑種）	子牛（交雑種）	35
子牛（乳用種）	子牛（乳用種）	20

○淘汰牛に和牛精液で人工授精していた場合は5万円加算、和牛受精卵を移植していた場合は10万円加算

(4) 牛の再導入期間：令和8年3月15日まで

(5) お問い合わせ先：富山県農業技術課畜産振興係 TEL 076-444-3289

※事業に係る奨励金交付申請書の提出にあたっては、管轄の家畜保健衛生所にご相談ください。

(農業技術課畜産振興係 田知主任)

家畜保健衛生所フィールド研究ノート

～県内の野生いのししで豚熱はなぜ再度増えた～

本県では2019年7月に初めて野生いのししで豚熱ウイルス（以下、CSFV）が確認され、その後県内全域に拡大しました。全国的にも飼養豚での豚熱発生が相次ぐ中、農場の衛生管理の徹底やCSFV経口ワクチン散布などの尽力により、県内養豚場での発生はありません。これまで野生いのししの年次別遺伝子検出率（検出数/検査数）は、2019年15.2%(31/204)、2020年13.1%(49/374)と非常に高く推移しましたが、いのししの抗体が高水準になったことを背景に、2021年には0%(0/302)、2022年1.2%(7/576)、2023年1.2%(13/1091)と低く推移しました。しかし、2024年は4.5%(65/1460)と前年から4倍近い増加を示しました。なお、この年の遺伝子検出数の半分以上が10-12月に集中していました（図1）。

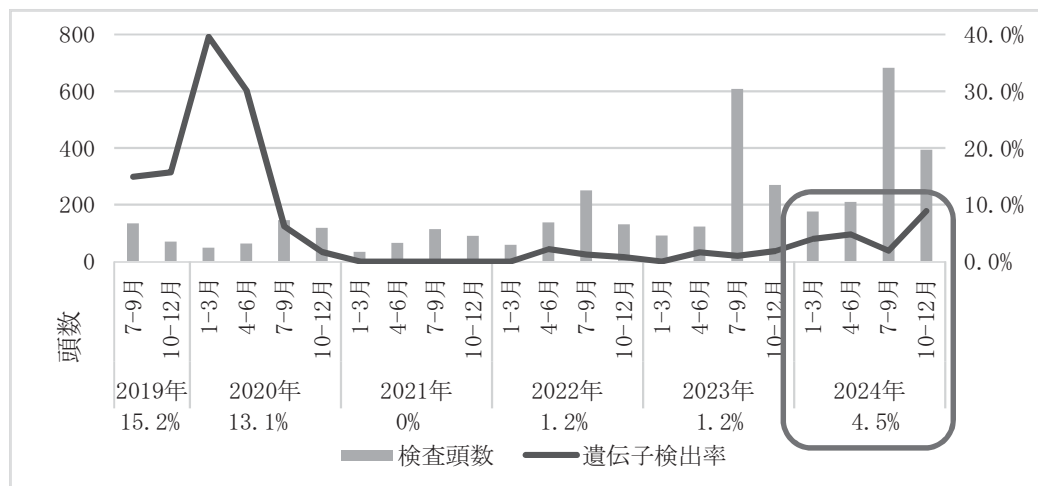


図1 野生いのししの検査頭数と CSFV 遺伝子検出状況

2024年の検出率増加の要因を分析したところ、いのししの主な妊娠期間である1～3月期の親の抗体価が前年同時期よりも低く、それに伴い一時的に幼獣を守ってくれる移行抗体の免疫レベルも例年より低かったことがわかりました。これは飼養豚でもみられた、世代交代による免疫反応の低下の影響と考えられます。つまり、2024年の春に生まれた子いのししは移行抗体による免疫が早期に消失してしまい、秋に親離れして行動圏が拡大した時には例年よりもCSFVに感染しやすい状態でした（図2）。そして、その状態のままCSFVが常在している山間部に立ち入ったり、2024年1月の能登半島地震の影響で隣県から流入してきたCSFV陽性のししと新たに接触したことで感染が増加したのではないかと推察されました。この分析を裏付けるように、経口ワクチンを重点的・継続的に散布していた地域では、免疫レベルは比較的高い水準を保ち、遺伝子の検出率も低く抑えられていました。

当所ではこれまで野生いのししの豚熱サーベイランスを市町やジビエ処理施設と協力して継続しており、とやまジビエを振興することで捕獲強化による頭数コントロールに寄与してきました。そして、豚熱の感染状況を常に把握し要因を分析することで、農場へ注意喚起するとともに、経口ワクチンの効果の検証を併せて行うことで、今後の豚熱対策につなげていきたいと思います。

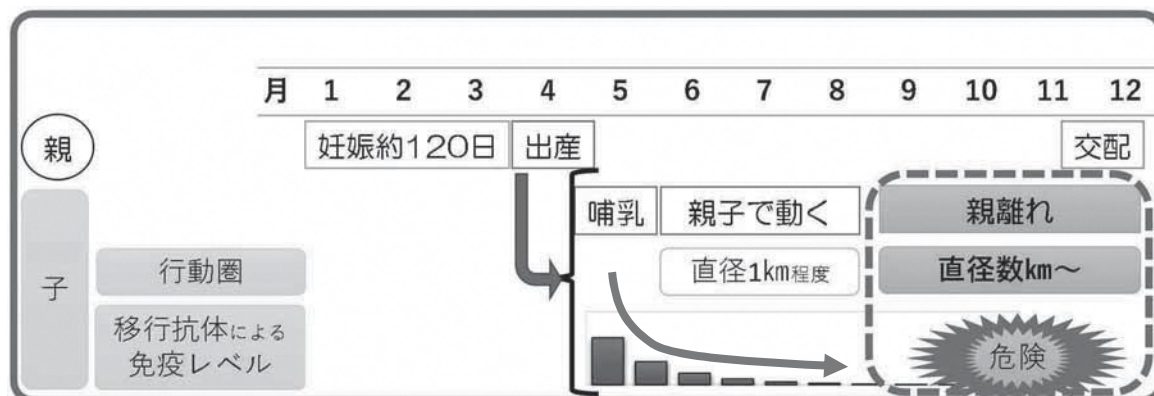


図2 野生いのしし生活環における豚熱感染リスク分析図

（東部家保検査課 藤井主任）

畜産環境保全を取り巻く状況について

今年度も東部家保管内では6～8月に牛・鶏農場で、9～11月に豚農場で畜産環境保全強化月間巡回を実施します（西部家保管内では10～11月）。家畜排せつ物や堆肥は家畜排せつ物法の管理基準に基づく適切な管理が義務付けられています。市町村の担当者・広域普及指導センターの普及指導員と共に対象頭羽数以上を飼養されている農場を巡回し、①家畜排せつ物の管理施設での管理状況、②施設の定期的な点検と速やかな修繕、③施設の適切な維持管理、④年間発生量の記録について確認しますので、改善点が見つかった場合は対応をお願いします。

また、豚農場では本巡回に合わせ、污水处理施設の終末排水について水質検査を実施するとともに、施設の適切な管理状況を確認します。なお、今年の7月1日から水質汚濁防止法における硝酸性窒素等の暫定排水基準が見直され、牛農場では硝酸性窒素等が300mg/Lから一般排水基準値である100mg/Lまで下がり、豚農場では400mg/Lのままで据え置かれます（下図）。この暫定排水基準は、今後も3年ごとの見直しを経て段階的に一般排水基準値まで引き下げられる方針であるため、引き続き污水处理の適切な管理をお願いします。

農場区分※	硝酸性窒素等	排水基準値	期限
牛農場	300mg/L	100mg/L (一般排水基準値)	—
豚農場	400mg/L	400mg/L	令和10年9月30日

※総面積200㎡以上の牛房、総面積50㎡以上の豚房を有する農場

今年4月には新たな家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針が農林水産省より示されました。従来の家畜排せつ物の適切な管理に加え、温室効果ガス排出削減など環境負荷低減の取組みについて、農家段階での普及・定着を推進する方向が示され、これまでも家畜排せつ物の資源としての有効利用が求められてきましたが、環境負荷低減について具体的な対応方法を伴う内容となりました。

適切な堆肥の生産、化学肥料の使用量の低減と堆肥等の肥料利用などの目の取組みが国の環境負荷低減の目標達成につながっています。

畜産環境保全強化月間巡回を通じて堆肥の流通先のご相談等も伺いますのでよろしくお願いします。



(東部家保環境課 岡部副主幹)

令和7年度畜産経営技術推進指導協議会総会・家畜保健衛生対策会議を開催

東部および西部地域畜産経営技術推進指導協議会は令和7年度の総会を5月22日、26日にそれぞれ開催し、全ての議案が承認されました。今年度も畜産優良施設視察等研修会、技術検討会、および昨年度大雪で中止となった畜産女性研修会を開催する予定にしています。

また、総会后、市町、畜産関係団体等が出席し、家畜保健衛生対策会議を開催しました。本会議では、家畜保健衛生所より今年度の重点業務、高病原性鳥インフルエンザや豚熱の防疫対策、アフリカ豚熱の発生状況、および環境保全の推進について説明し、今年度の協力体制を確認しました。



東部家保で開催された家畜保健衛生対策会議の様子

(東部家保指導課 蓮沼次長)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

豚熱（法定伝染病）

（6月2日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
99	5月9日	群馬県前橋市	一貫	約460頭	

県内の主な家畜伝染性疾患の発生

病 名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛ロタウイルス病	牛	4月23日	1	2	
牛パストツレラ症	牛	5月7日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	5月16日	1	1	と畜場発見
		5月23日	1	1	

令和6年（2024年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（令和7年4月25日～5月30日）

事例	回収日	場所	種名
200～226 27事例	1月17日 ～ 5月13日	北海道：札幌市、釧路市、苫小牧市、 根室市、別海町 茨城県：坂東市	ハシブトガラス、ハシブトウミガラス、オオハム、アヒ類、アカエリカイツブリ、ウトウ、ウミガラス、ウミネコ、エトロフウミスズメ、オオセグロカモメ、環境試料（水）

県内における野性のしし豚熱 PCR 陽性事例（令和7年5月1日～5月28日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	死亡	5月16日	砺波市市谷地内	成獣	雌

【参考】令和元年7月30日以降の野性のしし豚熱検査結果（単位：頭）

区 分	陽 性	陰 性	計
死亡いのしし	24	3	27
捕獲いのしし	153	4,078	4,231
合 計	177	4,081	4,258

今年も開催 富山駅で牛乳祭

6月1日は国際連合食糧農業機関（FAO）が定める世界牛乳の日です。日本でも、2007年に日本酪農乳業協会（現・一般社団法人Jミルク）が6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と決めました。この牛乳の日に合わせて、富山駅南北自由通路では牛乳祭が開催されました。これは富山市と富山市乳業協会が市内産牛乳の美味しさをPRして酪農家を応援するイベントです。今年は富山北部高校の生徒も協力し、揃いの牛柄のはつぴを着たスタッフにより200mLの牛乳5,000本が無料で配布されました。会場のブースでは地元産の牛乳をふんだんに使用したジェラートやパン、ケーキなども販売されていて、駅を訪れた大勢のお客さんは美味しい牛乳を手にと大満足の様子でした。



（東部家保環境課 宮本課長）

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
北陸三県和牛子牛市場	6月26日	北陸三県家畜市場（金沢市）

発 行 所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編 集 者 宮本 剛志（富山県東部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

